



【遠山の霜月まつり】

撮影者 三浦ゆうきさん（飯田市在住）

目次

● 年頭所感	2	● 検査の窓	7
● 第三次整備事業の概要について	3	マイコプラズマ肺炎てな～に	
● ねっとわーく		● 職場紹介	7
健和会飯田中央診療所	4	リハビリテーション科 その③（言語聴覚士）	
加藤医院	5	● お知らせ	8
● 介護老人保健施設ゆうゆう		外来診療について	
外構工事完成	4～5	● 皆様の声にお答えします	8
● 安心して満足いただける退院・転院を		● 新任医師の紹介	8
実現するための取り組み	6		

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、地域の皆さんに開かれた病院づくりを行います
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と人間性豊かな医療人の育成に努めます
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します

年頭所感



飯田市立病院 院長 金子源吾

新年あけましておめでとうございます。2012年として新たな年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当院は昭和26年12月3日に初めて診療を開始して以来、昨年同日で60周年を迎え、また、今年に現在の地に新築・移転して20周年を迎えることとなります。これもひとえに皆様方のご理解とご支援の賜物と感謝いたします。

振り返ってみますと、昨年は何かと暗い印象がぬぐえない年でした。特に3・11東日本大震災の影響が大きく、未曾有の大津波の被害に遭った地域の復興や福島原発の放射能汚染の問題はいまだに先の見えない状況が続いています。医療人としては放射能が将来人体に与える影響についても無関心ではられません。また、一方、当院にとっては千賀 脩前院長のご逝去という悲しい出来事がありました。これからは先生のご遺志を継ぎ、発展させることが使命と考えています。

さて、本年、当院が取り組むべき課題についていくつか挙げてみたいと思います。まず、第3次整備事業の建設が着工します。主として、①救命救急センター、②周産期センター、そして③がん診療施設の整備を行い、診療機能の充実を図るものです。①救命救急センター：平成18年10月から新型救命救急センターの運用を開始し、現在までに救急医療も徐々にではありますが着実に定着してきています。相変わらず救急車による患者の搬送も多く大変忙しくなっています。今年は病院機能をさらに高めるためにドクター・カーの配備を予定しています。昨年10月には信州大学から待望の救急医を派遣していただき、内容も充実しつつありますが、まだまだ医師を含めたスタッフの問題など課題は山積みです。

②周産期センター：昨年来当院で取り扱う分娩数が増加傾向にあります。今後もさらに体制を整えていく必要があると感じています。③がん診療：平成19年1月に地域がん診療連携拠点病院の指定を受けました。手術、放射線治療、化学療法、緩和ケアほかそれぞれの分野でのがん診療のレベルが著しく向上してきていると実感しています。まずは今年4月までには胃、大腸、肝、肺および乳がんの5大がんの地域連携クリティカルパスを導入、運用することが求められています。また、今年に地域がん診療連携拠点病院として相応しいか、見直しのために配備検討委員会の現地調査が予定されています。継続維持するためにがん診療のレベルをさらに高めていく必要があります。

このほかにも今年も課題となる案件は、医療事故防止、重症患者用ベッド不足の解消、特定の科の医師不足の解消、臨床研修医の確保など多岐にわたっています。病院の基本理念であります「地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践する」ため一つ一つ解決していきたいと考えています。

本年が皆様にとりまして希望に満ちた、明るい年になりますように心から祈念しています。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

第3次整備事業の概要



当院では、地域全体の医療環境の変化に対応するとともに、地域中核病院としての役割を果たすため「救急医療」「周産期医療」「がん医療」の診療機能充実と、サービス部門の利便性・快適性の向上を柱とする第3次整備事業を実施します。

主な整備内容

1. 救急医療

- ▷現在分散している救急外来、救急病床、救急ICUなどを集約し、救命救急センターとしての機能の充実を図ります。
- ▷救命救急センターは、CTなどの検査部門や、ヘリポートに近い南増築棟の1階に配置します。
- ▷救急病床6床、救急ICU4床と予備スペースを確保し、救急患者の受入環境を整えます。

2. 周産期医療

- ▷北増築棟1階に産科・婦人科外来と助産師外来を設置し、2階には分娩部門、新生児部門、産科病棟を集約することで、周産期センターとしての機能充実と動線の短縮を図ります。
- ▷これまでより病床、分娩室、陣痛室などを増やし、受入態勢を向上させます。

3. がん診療

- ▷落ち着いた環境となるように既存棟の1階西側（現在の救急外来）に配置します。
- ▷外来化学療法室に20床が配置できるスペースを確保し、緩和ケア部門、麻酔科などを一体的に配置して、がん医療の充実を図ります。
- ▷緩和ケアのためのサロンや面談室を設置します。

4. サービス部門

- ▷食堂は一般エリアと職員工エリアを分けるとともに、車椅子の方でも利用しやすいようレイアウトします。
- ▷売店は現在より広いスペースを確保し、移動しやすい通路と品揃えの充実を図ります。

完成予定時期

- ▷南棟・・・平成24年度中
- ▷北棟及び既存改修・・・平成25年度中



健和会飯田中央診療所

(飯田市 西 西 西)



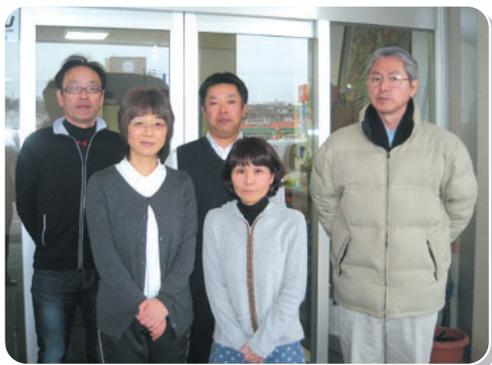
健和会飯田中央診療所の紹介

診療所長 熊谷嘉隆

当診療所は、西 西、松川の北岸にあった飯田中央医院を故伊藤郁夫先生から譲り受け、2002年に訪問診療を中心とする診療所として開設されました。訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、居宅介護支援事業所、デイサービスセンターを併設し、在宅での医療・療養・介護を総合的複合的に支援しています。訪問診療管理している患者様は月平均170名、一ヶ月の総訪問診療件数は往診も含め約200件、内訪問看護を受けている患者様は約80名です。お亡くなりになる患者様は年間60名程で、内15名程の方を在宅で看取っ

ています。健和会医師集団の総合的な力を借り内科・外科・脳外科・形成外科・リハ科等の多くの診療科の医師が訪問診療に携わり、安心して在宅で過ごせるよう努めています。病床削減、介護入居施設の建設が抑制される中で、高齢者の絶対数が増え続ける事態に対応する為には、在宅医療を支援する活動の整備・拡大を抜きにしては地域の医療は成り立たないと考えられます。今後も重度の障害を持ちながら在宅療養を続ける患者様が必ず増えます。健和会病院はもちろん、地域の病院・開業医の先生方との

連携を図りながら、安全・快適で質が高く、家族の負担も少ない在宅医療を提供する診療所として、努力を続けたいと考えております。今後も地域の先生方のご理解とご支援をお願いいたします。



熊谷先生(右側)とスタッフの皆様

所在地 〒395-0026 飯田市 西 西 西 581

☎0265-56-4828

診療科目 内科

診療時間 14時00分～15時00分

休診日 火曜日～日曜日・祝日

往診 可

駐車場 あり



ゆうゆう・高松診療所の正面玄関が完成しました



ゆうゆう新施設竣工後、昨年4月から旧施設の解体工事及び正面玄関の建設と駐車場等の施設周辺整備工事を進めてきましたが、昨年11月21日に正面玄関等が完成し、建物に関しては全ての工事が完了しました。長野県産の木材を使用した新しい玄関は、バリアフリーで入口の外扉は一体化されていて、中扉でゆうゆうと診療所に分離されているため、わかり易く、広いスペースとなっています。駐車場は計33台の駐車が可能で、このうち2台は車いす利用者、3台は障害や高齢の方、また妊娠中や乳幼児をお連れ

登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行なって、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

鈴加町の飯田郵便局の隣にあります加藤医院です。当院は祖父が明治の終わりに松尾代田で開業しました。昭和28年に父が現在の鈴加町に移し、一時は加藤胃腸科病院として入院診療も行っていました。今は消化器を中心の一般内科の診療所として開業しています。

私は昭和53年医師国家試験合格後、母校の大学病院、東京近郊の国立病院などの勤務を経て15年ほど前にこの地に戻り父の後を継ぎ診療にあたっています。先代からの患者さんで遠方から通院されている患者さんもいらっしゃいますが、地元で根付いた

加藤医院

(飯田市鈴加町)



敷居の低い診療所に

院長 加藤仁成

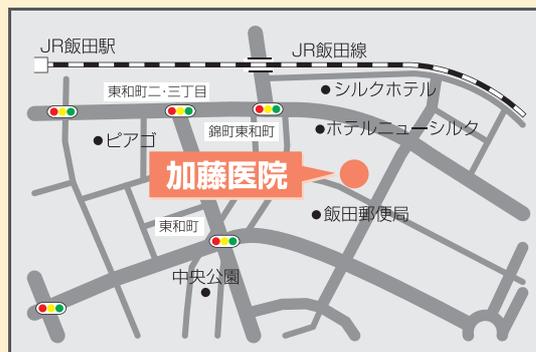
地域診療を目指しています。現在力を入れているのが胃癌撲滅の啓蒙運動です。年間5万人の方が亡くなる胃癌のほとんどがピロリ菌の感染が原因のことがわかってきています。除菌を行うことで亡くなる方が3分の1に減ると考えられ、感染者には除菌をお勧めしています。楽に検査が出来ると言われている鼻からの胃カメラも行っています。患者さんのお話をよく聞きわかりやすい説明をする患者さん本位の優しい診療を心がけています。予防注射、健康診断も行っていますし、健康相談もお受け

いたします。お気軽に受診ください。



加藤先生

- 所在地** 〒395-0084 飯田市鈴加町1-20
☎0265-22-1964
- 診療科目** 内科・胃腸科・放射線科
- 診療時間** 8時30分～12時00分 14時00分～18時00分
- 休診日** 土曜日午後、日曜日、祝日
- 往診** 可
- 駐車場** あり



の方が優先して使用できる「おもいやり駐車場」を設置しました。また随所に樹木や芝を植栽し、太陽光発電による外灯等環境にも配慮した設備となっています。今後は引き続き南側の多目的広場及び駐車場を整備し、地域の皆さんと施設利用者の方がふれあい、憩い、交流できる場となるような施設づくりを進めて参ります。



安心して満足いただける退院・転院を実現するための取り組み

近年、病院の機能分化が進む中で、当院は地域の急性期の医療を担う病院として重症、救急の患者さんの受入れにお応えしなければなりません。そのための病床を確保するため、入院治療が終了した方は退院や転院をしていただきます。

一方で高齢者の入退院の増加や家族形態の変化など様々な理由から、退院困難な入院患者さんも多くおられます。そこでスムーズな退院に向け、患者さんの理解や院内外の連携を前提とした退院支援が重要となります。

今回は当院での退院支援への取り組みの現状と、今後の課題等を紹介します。

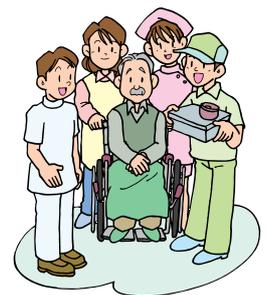
●当院の退院支援の流れ

- ① 退院支援の流れは、病棟看護師が入院時に患者さんとそのご家族の状況について、総合評価を行った上で退院困難となりそうな患者さんの退院支援をMSW（医療相談員）に依頼します。
- ② 依頼を受けたMSWは、病棟スタッフと一緒に地域の公的サービスや関係機関との連携・調整を行います。
- ③ 患者さんやご家族と面談して要望など聞くとともに、主治医、病棟看護師、リハビリスタッフらとカンファレンスを行い、退院・転院のおおよその時期の予測やその時の病状、家族の介護力など考慮しながら退院目標を設定します。
- ④ 必要に応じ病院スタッフ、在宅のスタッフによる退院前カンファレンスを行い、問題点の確認や在宅復帰に向けての支援をしています。



●退院支援で心がけている点

- ① できるだけ早い段階で支援の必要性を把握し、必要なサポートの開始ができるよう努めています。
- ② 支援にあたっては担当看護師が中心になり、患者さんに関わる医療者がチームで連携してサポートできる体制づくりに取り組んでいます。
- ③ 患者さんの思いを大切に退院後の生活をイメージし、医療関係者全員が退院目標を共有して支援することを心掛けています。
- ④ 病院側と患者さん・ご家族の退院に対する認識にズレが感じられることがありますが、入院時に急性期病院としての治療方針、退院の目標など十分なインフォームドコンセントを行い、ご理解いただくことが大切と考えています。



●退院を取り巻く現状と退院支援の課題

- ① 患者さんの高齢化や核家族化によって家族の介護力が弱まっており、退院の受け入れが困難となっているケースが増えています。
- ② 当院での急性期治療が終わっても、医療依存度の高い患者さんなどは受け入れてくれる医療機関が足りないため、転院が難しくなっています。
- ③ 介護上・医療上の様々な問題を抱えながらも在宅療養を望まれる患者さんに対しては、地域のかかりつけ医や介護担当者などの関係機関との連携は欠かせません。そのため地域医療連携（顔の見える関係）の取り組み、体制づくりを進める必要があります。

今後も安心して満足いただける退院の実現に努力してまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

検査の窓

その22

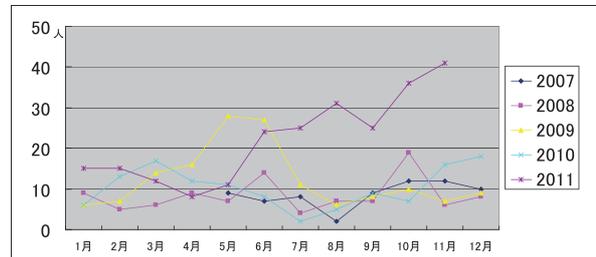
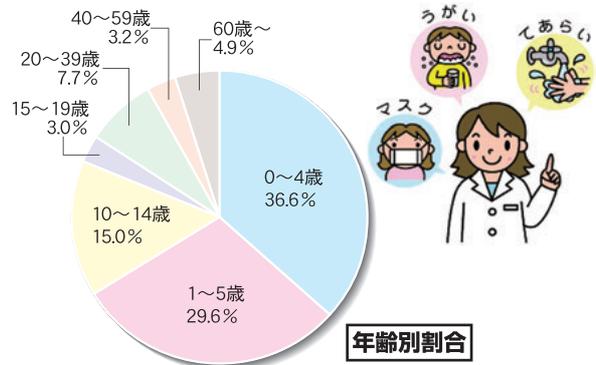
マイコプラズマ肺炎てな～に

マイコプラズマ肺炎の患者さんは例年に比べ非常に多くなっていることから、今回取り上げました。

マイコプラズマ肺炎は比較的小児がかかることが多く（年齢別割合参照）、しかもわりと軽症で普通のかぜと見分けが付きにくく、診断が遅れることがあり注意が必要です。お年寄りがかかると命取りにもなりかねない病気です。

多くの場合、せき、発熱、頭痛、倦怠（けんたい）感などが起こります。たんの出ない乾いたせきが激しく、しかも長く続くため、胸や背中中の筋肉が痛くなることもあります。このような症状が長く続いた場合は受診をお勧めします。

せきで飛び散った「しぶき」を吸い込んで学校や家庭内に感染が広がりますが、インフルエンザのような広い地域での流行ではなく、狭い地域・集団での流行が散発的に発生するのが一つの特徴です。予防には手洗い、マスクが有効です。



本院のマイコプラズマ肺炎（年間比較）
本年度は例年に比べ感染者が多く見られます。

シリーズ ● 職場紹介 ● その31

【リハビリテーション科の紹介 その③（言語聴覚士）】

飯田市立病院には、現在、3人の言語聴覚士が勤務しております。

コミュニケーションのこと、言葉のこと（話すこと、聞くこと、読むこと、書くこと）、食べること、呂律のこと、声のこと、お耳の聴こえのこと。それらが難しいことで生じる日常生活での困難さや問題を抱える方々に対し、必要な検査や訓練、助言、指導その他の援助を行なっています。対象となる方は、0歳の子どもさんから100歳に近い高齢の方まで幅広く対応しています。

私達は日々、患者さんとその御家族が笑顔でコミュニケー

ションを取って頂けるように、食事を美味しく安全に食べて頂けるように仕事をしています。必要に応じて、耳鼻咽喉科や放射線科などと協力して飲み込みの検査も行なっています。

大きな病気になった時や、とても心配な事が生じた時でないとなかなか、お会いする

ことが無いとは思いますが、気になる事は早めに主治医へ相談し対応をしていくことも大切です。言語聴覚士へ相談がありましたら、遠慮なく主治医へ御相談下さい。

言語聴覚士は、平成

9年に誕生したまだまだ新しい国家資格の職種です。

高齢化社会や高度医療時代に突入した現在、まだまだ人数不足の状態です。多くの方に、この職業を知って頂き、多くの若い方々がこの職業を目指して頂けると良いと思っています。





お知らせ

外来診療について



当院は、飯田下伊那地域の急性期医療を担う病院として、救急、産科、がん診療や各科による専門的治療を行っています。救急部門においては、「新型救命救急センター」として平成18年10月から運用を開始し、主として重症の救急患者さんの対応を行っています。

昨年10月より、救命救急センターの体制が変更になりましたので、当院の外来診療について改めてお知らせします。

- ①入院診療に重点をおいているため、各科外来診療については、平日午前8時30分から11時30分の受付となっています。
- ②各科外来受付終了後に来院された患者さんには、原則として、診療所等で受診していただくか、急を要する症状のない患者さんは翌日以降の受診をお願いしています。
- ③急を要する患者さんについては、救命救急センターで診察を行います。
- ④救命救急センターでの診察は、緊急度及び重症度の高い患者さんを優先しますのでお待たせすることがあります。
- ⑤救命救急センターでは、各科専門医でなく救急医の診察となり、状態によっては翌日各専門科への紹介受診となることもありますので、ご理解ください。

ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、今後も救命救急センターとして救急医療を担うように努力いたしますので、地域の皆さん方にも当院の機能や役割をご理解して頂き、ご協力をお願いします。

皆様の声にお答えします

「トイレ設備」の改善について

身障者用トイレの介助時に、荷物をかけるフックがなく不都合です。

障害をもつ子どものオムツやパンツを交換する場所がありません。赤ちゃん用のものは利用できないので、何とかしていただきたい。

2箇所の外来身障者トイレに、荷物用フックを設置いたしましたので、ご利用ください。



放射線科前の身障トイレに多目的シートを設置いたしましたので、ご利用ください。なお、混雑している時は、麻酔科外来の点滴用ベットをご利用いただけるよう手配いたしますので、お気軽にお申し付けください。



今後も病院をご利用いただく皆さんへのサービス向上に努めてまいりますので、お気軽にご意見をお寄せください。

あ と が き

忙しかったり、ストレスが溜まったりすると、ふと「何かいいことはないかな」などと考えてしまいがちです。しかし、去年は特別な「何かいいこと」などなくても、平穏・平凡な日常が、いかに幸せであるかということを改めて感じさせられた1年となりました。

今年は皆様にとっても、日本全体にとっても、平穏無事な1年であってほしいと思います。 編集委員 関島徹信

新任医師の紹介

平成23年11月～平成24年1月



小児科
萩元 緑朗
(はぎもと ろくろう)
平成6年3月卒業
平成24年1月16日着任
前勤務病院
昭和伊南病院

近くの「かかりつけ医」を持ちましょう。市立病院へ初診で来院される場合、かかりつけ医からの紹介による事前予約があると待ち時間が短縮されます。